

こども病院だより

No.8



日本医療機能評価機構

当院は、
日本医療機能評価
機構の認定病院
です。

安曇野市明科の御宝田
遊水池は県下有数の白鳥
飛来地です。



ご挨拶

院長 宮坂勝之

二月も中旬となると、一年
中で一番寒い時期を抜け出せ
る希望が湧いて来ます。「も
う少しで春だ」、といっても周
囲が驚かない距離まで春は近
づいています。前号でごあい
さつした時は、北アルプスに
丁度初冠雪があった日でした。
暖冬だといわれつつも、何回
かはしっかりと雪が降り、マイ
ナス一〇度になった日もあり
ましたので、やはり春は待ち
遠しいです。

新年に入り、一月二十二日
に開催された、患者家族代表
や地域の有識者を中心とした
「こども病院運営協議会」では、
こども病院の患者、職員双方
にとって重要なアメニティの
向上について議論がかわされ
ました。公共バスの必要性、
駐車場不足の問題、ATMの
撤退、売店やレストランの問
題など、当院の活性化に加え、
毎日外来二百名、入院百五十
名、職員四百名など多くの方々
の生活に深く関わる重要な課
題について貴重なご意見を賜
りました。

さて、県立こども病院は、

改革に向かって大きな変化が
動き出しました。昨年十二月
六日には、「県立こども病院の
あり方を考える会」が開催さ
れました。それまで専ら院内
で討議されて来たこのこども
病院のあり方を、広く有識者、
医療関係者をお招きして、県
民から見た議論に切り替えよ
うという新しい県政の具体的
な施策の一つです。開設十四
年目に入った当院にとって、
この間の政治面、経済面での
社会構造の変化は著しく大き
く、もはや社会の要請と無関
係に、純粹に医学的な見地か
らだけでは医療を行えない時
代になっていきます。県立病院
である当院が、広く県民の意
見を伺う機会を持つことは
ありがたいことです。

その会合では、予想どおり
こども病院への巨額な繰入金
に対し厳しい注文がつけられ、
経営改善に向けた努力の必要
性が指摘されました。一方、
現状の経営上の問題点が、具
体的にどこにあるのかが分か
りにくいとの、私も同感であ
る指摘もなされました。指摘

Contents

ごあいさつ	1
シリーズ部門紹介⑦ 放射線部門 【放射線科・放射線技術科】	2
小児の病気 【ひきつけ】	3
ボランティアの窓から 【習字】	4
みなさんの声 提案箱から	4
患者満足度調査より	5
外来医師担当表	6

された問題の中にはこども病
院特有の問題もありますが、
自治体立の病院が一般的に抱
える問題も多く含まれており、
まさしく県レベルでの検討が
重要であります。

確かに小児医療には政策医
療の部分が多く含まれ、通常
の診療報酬だけでは賄えない
部分があることは否めません。
しかし、問題はそれがどこま
で許されるかを、開設以来今
日まで県民に問うことなく来
た事です。新生児や乳児の医
療、あるいは先天性疾患の医
療では確かに医学的には誇れ
る結果を出して来ています。
しかしそうして救命、治療さ
れたお子さんが成長発達した
段階、あるいは成人化して背
負う問題が今や重要な課題で
す。それまで健康であったお



子どもが突然病気になった場合の小児救急医療についても十分に対応できておらず、社会不安、育児不安の源であるだけでなく、実際に依然高い死亡率として示されています。毎日の様に紙面をにぎわす、不慮の事故、虐待、虐め、そしてこどものメタボリックシンドロームなど、未来を担う子どもたちの、人間としての将来に懸念を感じさせる多くの問題に、こども病院こそこれから全力で取り組む必要があります。

県立こども病院を、県内の様々な医療機関と連携したネットワークの中で、小児医療で最も信頼され、「こどものことであれば何時でも誰でもが訪れることができる小児総合医療を提供する場」を効率よく実現し、県民の期待に応えたいと思います。

【シリーズ】部門紹介

⑥ 「放射線部門」

放射線科 部長 近藤良明
放射線技術科

科長 岩原 進

放射線部門は放射線科医師1名・診療放射線技師9名により患者さんの診断に欠かせない各種画像情報の提供と放射線治療を行っています。

【X線撮影】

皆さんお馴染みの「レントゲン写真」とも呼ばれますが、これは1895年に放射線を世界で初めて発見し「X線」と名づけたノーベル物理学賞受賞者ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン博士から取られた俗称です。

医療で広く使われるのは電磁波であるX線が中心であり、物体を透過する性質を利用して全身各部の骨や心臓、肺などの撮影を行います。

【CT検査】

X線撮影と同様にX線の透過性を利用します。身体の内周りを回転してX線を照射し、

その透過データの収集を行い、

高速なコンピュータにより再計算をして全身各部の横断面は勿論、矢状面、立体3D画像や消化管の内壁を内視鏡のように観察した画像などを得る事が可能です。その診断能力は近年飛躍的に進歩しています。形態を描出する能力に優れており画像診断には欠かせない検査です。

【MRI検査】

X線等の放射線は一切使用せず、強力な磁場の方向を急激に切り替える事により体内の水素原子核が振動し微弱な電波を発信する性質を利用し、それをコンピュータ解析して人体各部の任意断面や3D画像を得ることができます。脳内の血液の流れなどの生体情報を得ることが可能です。詳細な画像診断ができます。

【RI検査】

CT・MRIが形態を検査するのに対し、RIでは各臓器の代謝や血流、機能などを主に検査します。

人体に影響のない程度の微量な放射線同位元素を静注し、その薬剤の集積度を体の外からガンマカメラと呼ばれる大型の装置で撮像し、脳や心筋、全身の骨などの異常の有無を検査することが可能です。

【血管造影検査】

造影剤を使用しX線撮影では写らない血管の状態を詳しく描出する検査です。清潔区域内の検査室で、カテーテルと呼ばれる細い管を目的血管内に挿入し、造影剤をカテーテルより注入し、心臓血管・脳血管等の診断を行います。またカテーテルを介した血管内治療も行っていきます。

【超音波検査】

3メガヘルツ以上の超音波を使用し、魚群探知機と同様の原理を用い、生体情報を画像化します。放射線被ばくが無く動態像が得られ、胎児や子供さんに適した検査です。

【画像診断】

画像診断は専門家である放射線科医師により行われます。検査結果をモニター上でつぶさに観察し診断を行います。読影結果は写真と共にお渡し

しております。

正確な画像診断を行うため、MRI・CTでは1時間ほど、X線撮影で15分ほどお待ちいただいておりますが、患者さんの診断にとって必要不可欠な情報を提供させていただくために努力しておりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

【リニエック】

病変部の細胞が正常細胞より放射線に弱い性質を利用し、体外から強力な放射線を照射し治療を行います。正常細胞を出来るだけ傷つけぬよう病気の種類・広がりに応じて患者さんそれぞれに適した綿密な治療計画を行っています。

小さな子供さんが多いことから再現性の良い固定具やフィルム作製、不安を与えないようBGM・アニメ等を見ながら治療を行うなど様々な工夫をしています。



開院以来、常に最新の医療情報の提供を目指しスタッフの研鑽を重ねるとともに、チームワークを第一に頑張つてまいりました。平成13年度からは三六五日、24時間体制で検査が実施可能な体制を確立し、県内のお子さん達の健康を守るために努力しています。将来ある子供さんが対象のため、放射線被ばくの低減には特に配慮しており、検査の安全確保に常に注意を払いながら複数体制での検査を行っています。

放射線検査に関する事、心配な事などありましたら遠慮なくスタッフにお声がけください。



【小児の病気】

【ひきつけ】

神経科 平林伸一

ひきつけは、子どもの示す症状の中でも、保護者の方がもつともびつくりし、あわててしまうものの一つではないかと思えます。今回はこの小児のひきつけについて、ご説明したいと思います。

ひきつけには、大きく「てんかん」という病気で起こるものとそうでないものがあります。そうでないものには、急に高い熱が出たときに起こる「熱性けいれん」や、激しく泣いた後に起こる「泣き入りひきつけ」、脳にゆく血液の量が急に減少するために起こる「失神」など様々なものがあります。これらは直接的には脳の問題とは別の理由で起こるものであり、それを避けることで予防することができます。

「熱性けいれん」は、すべてのお子さんの8%前後に起こるとされ、とてもポピュラーなものです。幼児期の未熟

な脳が高い熱に曝されたとき、熱でひきつけやすい素因を持った子に起こります。小学校入学頃までには起こさなくなるのが一般的です。成長の過程で熱を全く出さないことは無理ですが、ひきつけを起こさないよう予防することは可能です。何回も繰り返すお子さんでは、熱を下げる手だてと共に、ダイアップというひきつけを抑える坐薬を体温が38度位になったら使うようになります。ちょっと話がややこしくなりますが、「複合型の熱性けいれん」といわれるものがあり、発作が身体の一部から起こったり一部分だけが強かったりするもの、持続が10分以上のもの、24時間以内か一回の発熱性疾患中に繰り返すものを指します。このタイプは将来てんかんを発症するリスクが若干そうでないものより高いことがわかっており、てんかんに準じてお薬（抗てんかん薬）を内服していた

激しく泣いた後に息を止め

真つ黒になつてひきつける「泣き入りひきつけ」も乳児では時に見られるものです。急にびつくりしたときなどに蒼白になつてぐったりしてしまうものもあります。これは「失神」に近いタイプと考えられます。いずれも成長とともに自然に起こさなくなつてゆきます。

「てんかん」は、てんかん発作を繰り返す慢性の脳の病気です。小児の1%弱に見られるとされています。この発作は一定のまとまった神経細胞が一時的に過剰に興奮することによつて起こります。過剰な興奮が脳のある特定の部分から始まるか、最初から脳全体を巻き込むかによつて、「部分てんかん」（正確には「局在関連性てんかん」といいます）か「全般てんかん」かに分かれます。また、お産の時の障害や脳の炎症のような原因がはっきりわかつているものを「症候性てんかん」、はっきりしないがどこかに原因が潜んでいると考えられるものを「潜在性てんかん」、起こしやすい素因以外に原因が考えられない

ものを「特発性てんかん」と呼びます（表参照）。てんかん発作は、それぞれのてんかんのタイプによつて様々なものがあります。例えば、数秒間意識が突然とぎれる「欠神発作」は全般てんかんに、もつと長い時間（数分）意識が混濁し自動症という動きを伴うことのある「複雑部分発作」は部分てんかんに見られます。全身が硬直し、その後でガクガクとなる全身けいれん発作（「強直間代発作」）は両方のタイプで見られます。同じような発作を特に誘因もなく繰り返すときはてんかんが疑われます。発作の様子を詳しくお

表 てんかんの分類

1. 全般てんかん
1. 1. 特発性全般てんかん
1. 2. 潜因性全般てんかん
1. 3. 症候性全般てんかん
2. 局在関連性てんかん（部分てんかん）
2. 1. 特発性局在関連性てんかん
2. 2. 潜因性局在関連性てんかん
2. 3. 症候性局在関連性てんかん
3. 未決定てんかん（上記のどちらかを決定できないてんかん）



聞きし（もし発作をホームビデオで記録してあるととても参考になります）、脳波をとって特徴的な発作波を確認できれば（時には発作が起こっている最中の脳波をとらないとわからないこともあります）、診断が付きまます。タイプにあった適切なお薬（抗てんかん剤）を飲み続けることで小児のてんかんの70〜80%はコントロールすることが出来ます。残りのいわゆる難治といわれるてんかんの中にも外科手術によって劇的に改善するものがあります。発作が起こったときは、多くは数分で自然に止まるので身体を横向きにし、衣服をゆるめてあわてずに発作を観察してください。10分以上発作が続くときや一度止まったように見えてもまた繰り返し返すときはすぐに病院の救急外来を受診してください。

ボランティアの窓から

「院内学級ボランティア」

お習字教えています。

佐原桂香

院内学級でお習字を教えています。平成7年、当時の院内学級中学校担任だった川船先生に、「病氣と闘っている子ども達がたいくつしているのでもちよつとお習字を教えに来ていただけませんか。」とお声をかけていただいたことがきっかけです。少しのつもりだったのですが、子ども達の明るい笑顔、つぶらな瞳のトリコになり、毎週毎週おじやましている内にあつという間に11年が過ぎ、すっかり生活の一部になってしまいました。今では、私の方が病氣と懸命に闘っている子ども達の姿に勇氣と元氣をもらっています。もらってばかりではないとお習字の時間は、「真剣に字を書いている間、ほんの五分でもいいから墨の香に癒されて病氣のことを忘れてね。必ず治るよ。」と願っています。

振り返ってみると、「みんなと写真を撮っておけば良かったな。」と気が付き、友人の写真家である塚本静子さんにお願いし、私と子どもたちの記録である小さなアルバムを作っていたいただいています。塚本さんも、やはり子どもたちの笑顔のトリコとなり勇氣と元氣をもらいながら、毎週子どもたちに会えるのを楽しみにしています。彼女は、レンズを通して子どもたちを応援しています。ご覧になりたい方は院内学級までお出かけ下さい。



また、年に一回、病院の会議室をお借りして子どもたちの展覧会を開いています。この展覧会は、私にとって「どんな大きな展覧会よりも最高だ。」と思っています。ちよつとドジな私ですが、

お婆ちゃんになってもボランティアを続けさせていただけたら幸いです。（追記）

具合が悪く午前中はお休みでも、午後のお習字の時間だけは登校する子どもがよくいます。これは、佐原先生の魅力と墨の香りによるのではないのでしょうか。（赤羽）

みなさんの声

提案箱より

院内にポストを設置し、皆様からのお叱りや励まし、ご提案など様々な声をいただいています。常日頃、患者さんの目線で行われていますが、患者・ご家族の皆様からのママの声には、私たちが気づけずにいる、「ハッ」とするようなくとも多くあります。また、私たち職員のみならず、声もご紹介させていただきます。代表的な声をご紹介します。一部を割愛しています。

「顔を覚えてくれて、会計待ちが長くなりそうな時、一言、声をかけてくれるので助かります。たくさん患者さん

んがいるので、顔を覚えるのは大変な事だと思えます。なので、とつてもうれしい気持ちになりました。」

※たいへん嬉しいご意見をいただき、日々の励みとなります。患者・ご家族の皆様には安心を届けてまいります。

「駐車場の雪が残っていて、乗せ降ろしが大変でした。」

※気づかずに申しわけありませんでした。小さなお子様を連れてのご来院の際、お困りのことがありましたら受付に一言声をお掛けください。

「薬の待ち時間が長すぎます。」

※小さなお子様の場合、おとなの薬と違って量が少ないために、成人用の錠剤を割ったり、粉薬を計り直したりして調剤しますので、その分余計に時間がかかってしまいます。県内全域からお見えになる患者さんの利便を図るために今年3月から院外処方せんを発行する準備を進めていますので、今しばらくお待ちください。 ※患者さんの症状、状態によっては院外処方が向かない場合もあります。

患者満足度調査報告

【調査の目的】患者・ご家族様のサービス向上に役立てることを目的としてアンケート調査を実施しました。

【調査の対象】こども病院に入院をしている患者様又はご家族および外来受診の患者様又はご家族。

【実施期間】

入院：平成18年10月12日（木）～18日（水）7日間

外来：平成18年10月25日（水）～26日（木）2日間

	入院	外来
配布数	122	306
回収数	95	304
回収率	78%	99%

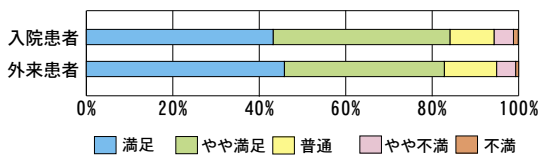
まとめ

入院での全体の満足率は84.1%と高い数値でしたが、施設・設備・入院生活についての項目で、売店の不満率50.6%、食堂の不満率44.4%と非常に高い不満がでています。また、同じ項目で不満率が20%を超えるものとして、病室の温度差、控室の設備、自動販売機などがあります。それ以外の項目では、満足率は概ね高いものとなりました。

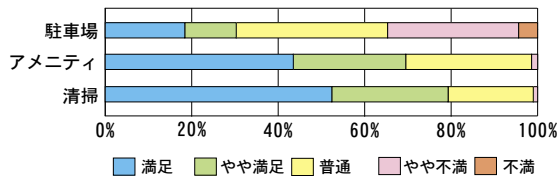
外来では、入院と同様に調査全体を通しての満足率は82.8%と高い数値でした。不満率が高いものを見ると施設・設備・情報提供の項目で、駐車場の不満率34.7%と不満が満足率30.3%を超えています。また売店の不満率35.2%は、入院での調査と同じ傾向がでています。その他特筆すべきものとして待ち時間での不満が高いものが見受けられます。医師21.3%、受付・会計13.3%、心電図・脳波13.0%、薬局24.1%の不満率です。

待ち時間については、日頃から問題とされている部分であり、原因として、診察や検査に至るまでの小児患者特有の問題（眠剤導入・ぐずり等）での待ち時間増加や薬局での調剤の手間などが影響しています。診察や検査などで待ち時間が長くなる場合は、その都度説明するよう心がけており、薬局での待ち時間対策では、現在院外処方を検討しています。

病院について

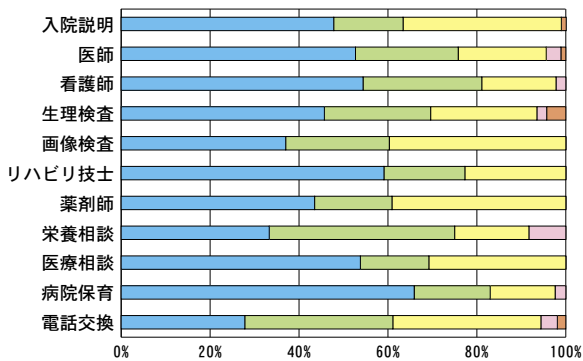


病院全体について

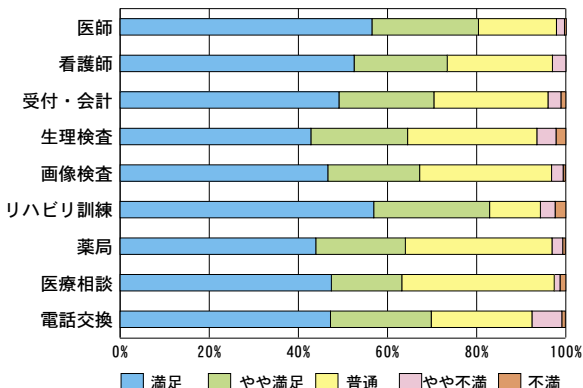


外来患者満足度 - 病院について

職員の対応について

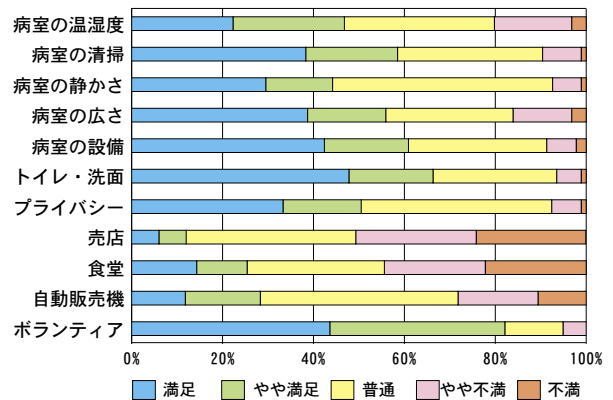


入院患者満足度 - 職員の対応について

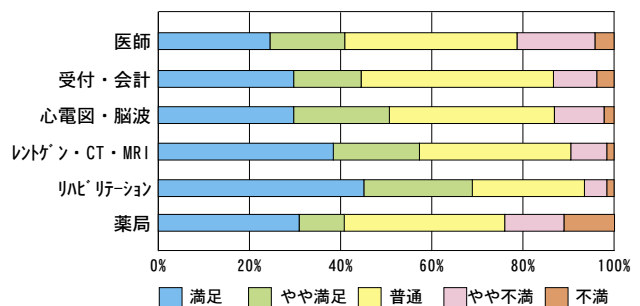


外来患者満足度 - 職員の対応について

設備・待ち時間について



入院患者満足度 - 病院の設備について



外来患者満足度 - 待ち時間について

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
南棟 外来	整形外科	藤岡文夫(AM)	(手術日)	藤岡文夫 酒井典子 ※1加藤博之(PM)	藤岡文夫(装具)	藤岡文夫(AM)
	小児外科	好沢 克(AM)	百瀬芳隆(AM)		好沢 克(AM) 百瀬芳隆(PM)	町田水穂(AM)
	眼科	徳島忠弘		徳島忠弘		
	麻酔科	大畑 淳(AM)				井口まり(AM)
	皮膚科			太田由子(AM)		
	血液・腫瘍科	石井栄三郎	山本めぐみ	石井栄三郎	石井栄三郎	吉川健太郎
	循環器科	原田順和 打田俊司	里見元義 安河内 聡	打田俊司	里見元義 金子幸栄	安河内 聡 金子幸栄
北棟 外来	脳神経外科	重田裕明	重田裕明		重田裕明 宮入洋祐(PM)	宮入洋祐(AM)
	形成外科	※2野口昌彦 近藤昭二(PM)	野口昌彦 近藤昭二(PM)	野口昌彦 近藤昭二	※2野口昌彦(PM) 近藤昭二(PM)	※2野口昌彦(PM) 近藤昭二(PM)
	総合診療科	川合 博 山崎和子 栗原伸芳	伯耆原 祥 依田達也	川合 博 中村友彦	伯耆原 祥 中村友彦	川合 博 山崎和子 依田達也
	神経科	平林伸一	平林伸一 平野 悟 新美妙美(PM)	笛木 昇 新美妙美(PM)	新美妙美(AM) 平野 悟(PM)	平林伸一 平野 悟
	精神科(こころの診療科)				※3原田 謙(PM)	
	遺伝科	川目 裕		川目 裕	川目 裕(PM)	川目 裕(AM)
	耳鼻咽喉科		工 穰(PM2:00~5:00)			
	泌尿器科			井川靖彦(PM) 市野みどり(PM)	(隔週で交代)	
	産 科	菊池昭彦 高木紀美代	菊池昭彦(AM) 高木紀美代(PM)	高木紀美代	菊池昭彦(PM) 高木紀美代(PM)	菊池昭彦 高木紀美代
	リハビリ科	笛木 昇 三沢朋子	笛木 昇(PM) (嚥下摂食外来)	三沢朋子 平林伸一(AM)	笛木 昇 三沢朋子(AM) 平野 悟(AM)	三沢朋子(AM) 三沢朋子 (PM装具)
	救急・集中治療科	笠井正志 隅 達則 (交代制)				

※1 整形外科加藤医師は隔月第3水曜日のみです。

※2 再診の患者様のみです。

※3 精神科(こころの診療科)の初診を受けるには、あらかじめ総合診療科または神経科の受診が必要となります。

★ 診察時間：午前9時～午後4時 休診日：土日曜日、祝祭日、年末年始

★ 受診には予約が必要です。また初診時には保険医療機関からの紹介状が必要です。

予約受付時間：8時30分～17時15分 月曜日～金曜日(土日曜日、祝祭日、年末年始を除く)

電話 0263-73-5300 (予約専用)

詳しい受診案内はこども病院ホームページにも掲載しています。

<http://www.pref.nagano.jp/xeisei/kodomo/index.htm>